

— 議事概要 —

●議題1 新たな標準仕様案について

事務局より、車両総重量3.5t以下の車両（普通・小型・軽自動車）と車両総重量3.5t超の車両（大型トラック等）のそれぞれについて、新たな標準仕様（案）と情報提供時期（案）の報告があった。なお、主に挙げた意見等は以下のとおり。

- ・新たな標準仕様への追加と情報提供時期について「検討中」となっているシステムについての検討の方向性は。

→システムの普及状況を見極めながら、普及が進んでいる車両カテゴリーについては先行的に対応する等の個別の検討を行う。

- ・来年度に行う欧米実態の調査については、提供された情報のツールへの反映状況等、実際の運用の実態を見ていく必要がある。

●議題2 今後の研修体制及び教育内容について

高度診断教育WG事務局より、整備環境の充実に向けた取り組み状況と、人材育成体制の充実に向けた新たな研修会の内容（案）の報告があった。なお、主な意見等は以下のとおり。

- ・MOOC(Massive Open Online Course)と呼ばれるインターネット上での公開講義の仕組みの活用や、故障診断実習用のシミュレータを開発して自動車車両の代わりに用いることなどの可能性を検討しても良いのでは。

→自動車の故障時、ユーザーから症状を聞き取り、実際に車両を見て、スキャンツールを繋ぐという流れが重要と考えており、現時点では故障診断シミュレータのようなものは車両メーカーでも開発していないが、非常に重要なご示唆をいただいた。

- ・スキャンツールは誰でも購入できるため、標準仕様を拡大したスキャンツールを使う側に必要な技術等がないと、逆に自動車の状態を悪化させてしまうことが危惧される。

→規制官庁としては、整備事業者と一般自動車ユーザーに対する規制等のあり方を、自動車の技術の進歩に対応して検討していきたい。

→高度な診断が何でもできるようにすればよいというものではなく、様々な枠組みで安全等を担保することを今後検討したい。

- ・近年、自動車の自動運転の技術の進歩が目覚ましいが、どのように考えるか。

→自動運転や先進安全技術の開発が進み、現在の標準仕様ではカバーできない範囲が増えてくるという問題意識から、この検討会を立ち上げた。今年度の検討はそれに繋がる第一歩という位置づけになる。

●議題3 その他

- ・今年度の検討会は今回で終了するが、来年度も引き続き進めていく。